



担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

小・中規模圃場お任せ

ドローン利用進む

費用・操縦の負担減

防除・診断

ドローン(小型無人飛行機)の飛行を定めた改正航空法が2015年12月に施行され、農林業で利用が急速に広がっています。農業では薬剤散布用に、動力噴霧器と産業用無人ヘリコプターの間を埋める新たな選択肢として小・中規模圃場(ほじょう)で使う生産者が増えています。高性能カメラによる生育診断などが進む他、資材の運搬など品目や目的に応じた活用法が見えてきました。

農水省によると16年度にドローンを使った防除面積



薬剤散布にドローンが活躍

は684・4畝で、水稲586・4畝、大豆97畝、その他露地野菜が1畝でした。無人ヘリの防除面積(105万畝)の0・1%にも満たない面積ですが、農水省は「17年度は未集計だが」水稲では、かなり増えている「(植物防疫課)と推測しています。さらに飛行に規制が少ない生育診断などでは、広範囲

で利用されているとみられます。

千葉県東金市で水稲28畝を作付けしている菅野さんは16年5月、防除用に薬剤5畧を積めるドローンを購入しました。面積が20畧を超えた時から、薬剤2畧が積める小型無人ヘリで防除をしていましたが、規模拡大を考え、ドローンに替えました。

16年3月に3日間の講習を受け、免許を取得。機体分を含めて、費用は約230万円でした。高額な投資ですが、「20〜30畧は、10000万円超の無人ヘリを使うほどの規模ではなく、ドローンがちょうどいい」と話します。菅野さんは、8月盆までにカ

ムシといもち病防除のため1、2回使います。圃場は、30畧以下の区画が主で、1回の薬剤補給で約60畧分の散布ができます。実際に計測したところ、20畧圃場で離陸して散布、着陸するまで4分弱でした。

数字でみえる 三重県の農と食

三重県内の小麦の作付面積

平成29年産の三重県の小麦の作付面積は、東海農政局「東海3県の麦類(平成29年産)の生産動向」によると、6430^{ヘクタール}で全国5位です。作付面積は増加傾向で10年前の平成19年と比較すると1200^{ヘクタール}増加しています。東海3県の平成29年産の作付面積を全国と比較すると、愛知県が5530^{ヘクタール}で同7位、岐阜県が3190^{ヘクタール}で同12位と三重県の作付面積が一番多くなっています。

6430^{ヘクタール}

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

JAいがほくぶ

菌床でシタケ 児童に栽培指南

JAいがほくぶ菌茸(きんたけ)部会は11月中旬、伊賀市立中瀬小学校の2年生14人に、菌床ブロックを使ったシタケの栽培を指導した。生活の授業の一環として行った。栽培指導をしたのは、生産者の南博人さんと山根きみよさん。シタケを育てるための菌床ブロックの作り方や、栽培方法を児童に説明した。授業の後は、山根さんの栽培したシタケが食材として使われている学校給食「キノコの和風スパゲッティ」を、生産者と児童と一緒に食べた。

(2017/12/2 県版三重)

JA全農みえ

合格祈願米を販売「結びの神」で「ご縁結び」

JA全農みえパルライス販売課は12月4日、2017年産の県特産「結びの神」を使ったパルライス精米商品「合格祈願『結びの神』」の出荷を始めた。「ごはんで受験生のご縁結び」をテーマに2015年、商品を企画した。今年も受験シーズン限定で販売し、受験生と家族を応援する。期間中に、精米で20トンの販売を見込む。「結びの神」の品種は、県開発の「三重23号」。50万株以上から選び抜かれて誕生した。栽培するのは県が選定した生産者で、「三重23号」のうち一定の品質基準に合格したものだけが「結びの神」として販売される。

(2017/12/5 ワイド1東海)

JA三重中央会

JA運営に女性の声を 三重中央会が語る会と研修会

JA三重中央会は11月下旬、「中央会役員と地域活動について語る会」と「JA女性役員・女性部長・事務局合同研修会」を津市のJA三重ビルで開いた。語る会は、JA女性組織役員の声を中心に、中央会役員へつなぐため毎年開いている。女性組織役員要望で2017年度は初めて、各連合会とJA事業サポートセンターの担当部長も参加した。女性部長からJA自己改革や各事業の地域活動などで声が上がリ、活発な意見交換となった。研修会は、JA三重中央会が農業・農政を巡る情勢について説明した。

(2017/12/8 ワイド1東海)

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介する。

Webで情報を共有 地域全体で害獣の捕獲へ

情報 報通信技術(ICT)を活用し、檻や罠をパソコンやスマートフォンなどで遠隔監視・操作、情報共有できるシステム

クラウドまるみえホカクン」を三重県農業研究所(研究担当者・山端直人(現在・兵庫県立大学)が鳥羽商船高等専門学校、株式会社アイエスイーと共同で開発しました。

イノシシ、シカは防護柵を併用した加害個体の捕獲や高密度地域の集中捕獲が、サルには追い払いなどの被害対策と併せ

て群れ単位の頭数管理が重要で、調査に基づく捕獲計画の策定や実施可能な体制構築を前提とした遠隔監視・操作システムの導入が有効です。

「クラウドまるみえホカクン」は、クラウドスペースに連動しており、侵入センサーに連動した接近情報のメール通知、檻や罠の映像の閲覧、遠隔でゲートを落

下させるなどの機能や、チャット機能を活用し、リアルタイムで利用者同士の情報交換も可能です。

クラウドまるみえホカクンの外観とシステムの概要



お問い合わせ先

三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎0598-42-6356
 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 ☎0795-80-5500

農業を営む すべての方に

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

農業経営資金

すべての農業者の 実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

明日の農業を担うみなさまへ
 JAバンクは地域農業を応援します!

詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

平成29年12月現在



【金利情報】平成29年12月20日現在

農業経営資金

変動金利
 年**1.00%**

固定金利
 年**1.50~2.00%**

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年**1.5%**
 (変動金利)